

授業日	5/31(火)	1 学期授業回数	6 回目 / 全 9 回
学習目標			
時間 授業内容	15	<p>本日の授業概要の説明（以下内容）</p> <p><AI 活用 招聘者を選ぶプレゼンの準備></p> <p>(0) プレゼンの条件・評価基準</p> <p>① 5分±15秒に収める</p> <p>② クエストカップに向けて参考になる事例を学ぶことができる人が (1)洞察力 (2)構築力 (3)訴求力</p> <p>【洞察力】 社会課題の本質を捉えるとは 見出した「課題」が本当の意味で「社会」に還元できる（影響を与える）ものであるのか。「課題」そのものの着眼点が優れているか、ということ！！</p> <p>【構築力】 「本当に解決できるのか」に関しては、実例を挙げて、AI技術やその方のアイデアが「課題」を「解決」するプロセスや結果を紹介しよう。</p> <p>【訴求力】 社会にどれだけ大きなインパクトを与えるか、ということよりも、これまでの「考え方の枠組み」を転換（パラダイムシフト）するような事例や、価値観の転換（ゲームチェンジ）を促した事例であるかどうか。</p> <p>③ 主体的な発表となっているか (1) 動機 (2) 価値観・経験</p> <p>(1)カテゴリーに分かれて班を作る</p> <p>A 類 ゲーム・エンターテインメント関連 B 類 政治・金融関連 C 類 通信・インフラ関連 D 類 産業・健康・企業経営関連</p> <p>※それぞれをさらに細分化し4名前後の班を作る。1班～7・8班</p> <p>(2)班の中で調べてきたことを共有</p> <p>(3)プレゼンの役割分担をする</p> <p>①プレゼンター（発表者） ②ファシリテーター（司会者） ③スライドクリエーター（資料準備者）</p> <p>(4)プレゼンまでのスキームを決める</p>	
	75	<p>グループワーク</p> <p>・招聘者の選定</p> <p>・役割分担</p> <p>・スライド作成</p>	
評価方法	<プレゼン評価のルーブリック>		

観点1 「洞察力」の事例を的確に紹介できているか。	
5点	社会的課題を具体的に想定し、AIを使った取り組みやアイデアがその解決に具体的に働きかけていることが分かる説明となっている。
3点	社会的課題を想定していることは説明されているが、それがAIを使ってどのように解決にむけて働きかけたのかが明確でない。
1点	AI技術とその取り組みについて事例を取り上げているが、その課題が社会的な課題ではない。
観点2 「構築力」の事例を的確に紹介できているか。	
5点	AI技術やその人のアイデアによって、「課題が解決していったプロセス」や「具体的にどのように変化したのか」が説明されている。
3点	AI技術やその人のアイデアによって、具体的に課題を解決していることは紹介されているが、プロセスが具体的でない。
1点	AI技術やその人のアイデアが課題解決に繋がった事例が紹介されていない。
観点3 「訴求力」の事例を的確に紹介できているか。	
5点	AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に「考え方の枠組みの転換」や「価値観の転換」を促す点が説明されている。
3点	AI技術やその人の取り組みによって、多くの人に影響を与えた点は触れているが、考え方の枠組みや価値観の転換にまでは至らない。
1点	AI技術やその人の取り組みが、多くの人に影響を与えたとは言えない。
観点4 主体的な発表になっているか。	
5点	招聘する人を選ぶ時の動機が、班員の具体的な課題意識や経験の中から生まれたものであり、単に受動的なものではない。
3点	招聘する人を選ぶ時の動機が、社会的課題の大きさからくるものではあるが、班員の具体的な動機と繋がっているとはいえない。
1点	招聘する人を選ぶ時の動機が、単に有名であるから、ニュースに取り上げられていたから、と単に受動的なものとなっている。
観点5 伝達しようという意欲の伝わるプレゼンテーションとなっているかどうか	
5点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序が優れているだけでなく、声の大きさや視線、ジェスチャーも優れている。
3点	プレゼン資料の準備、発表時に用いる表現やその順序について、あるいは、声の大きさや視線、ジェスチャーのいずれかが優れている。
1点	プレゼン資料の出来栄も特筆することはなく、発表は原稿読み上げにとどまり声が小さく自信がなさそうな印象を与えている。
宿題指示	プレゼンの準備を仕上げる